

北海道支部資料

平成21年10月26日
協会けんぽ北海道支部
支部長 宮間 利一

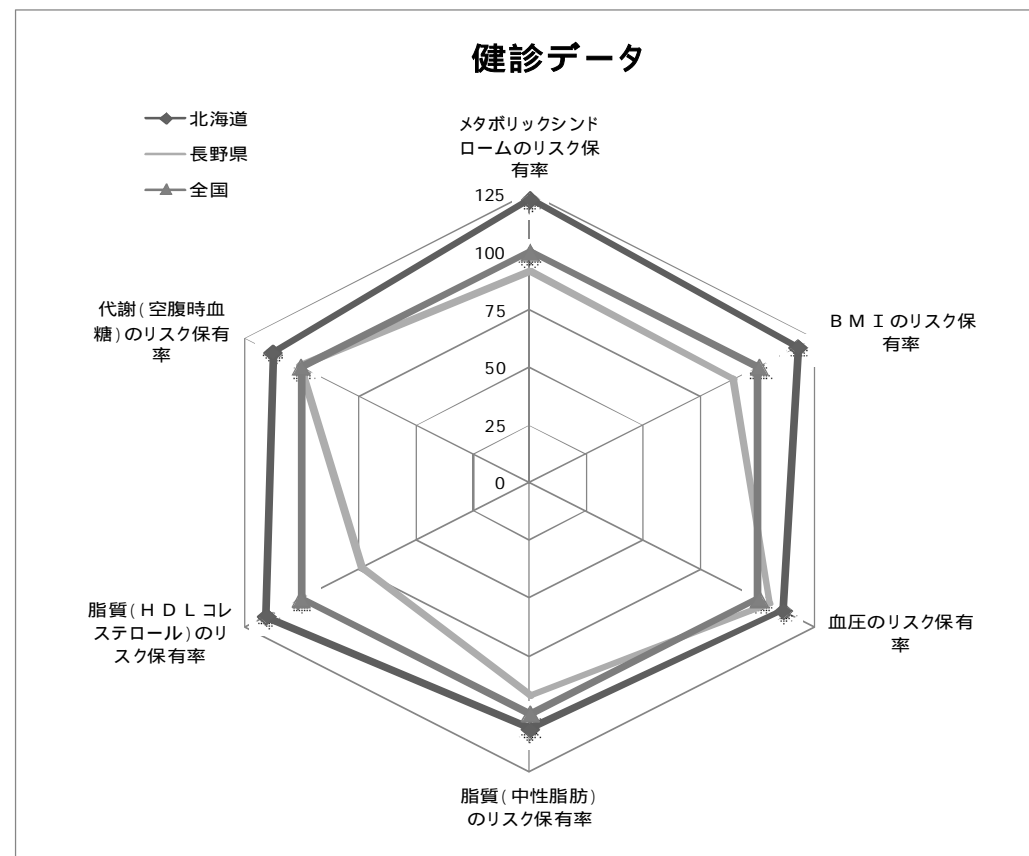
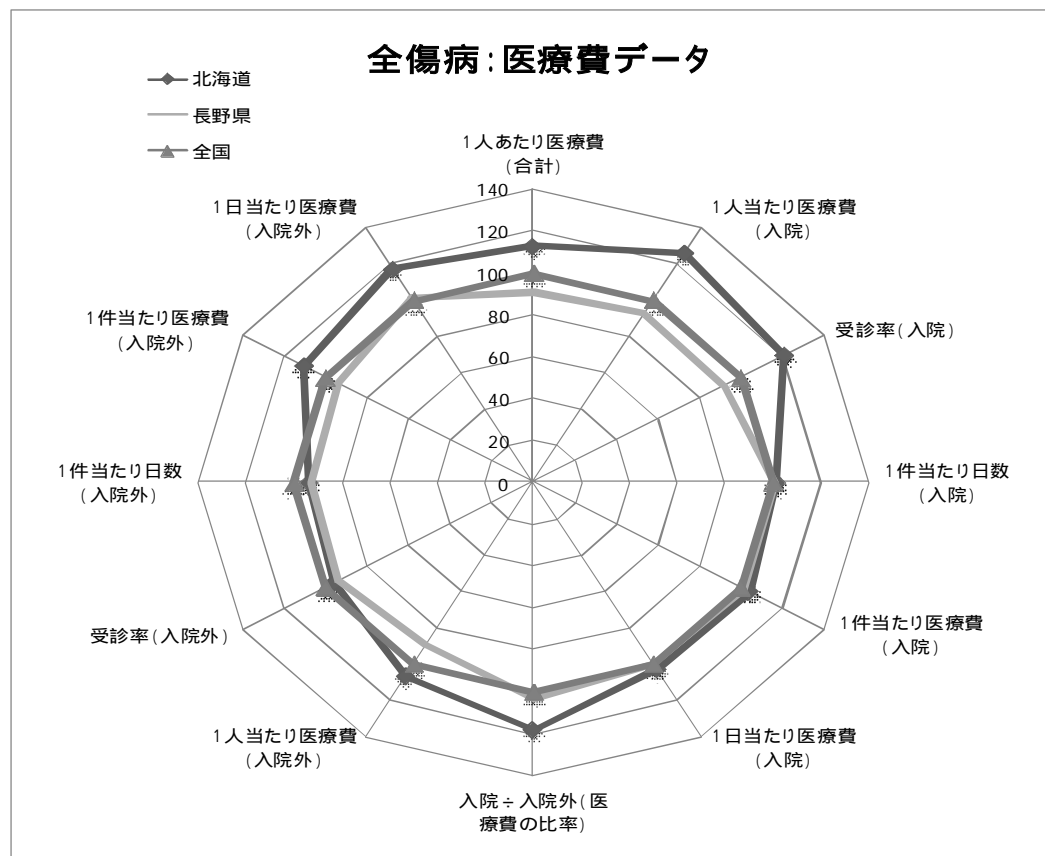
目 次

- ・平成19年度北海道の医療費・健診データのレーダーチャート
- ・北海道の特殊性(社会・自然的要因)
- ・可住地面積対施設数
- ・北海道における受診動向
- ・北海道支部評議会における意見概要
- ・パイロット事業について

平成19年度

北海道の医療費・健診データのレーダーチャート

～ 北海道支部は高いメタボリックシンドロームリスク保有率 ～



データ：レセプト基本情報データより集計
年次：平成19年度計(3～2月)

データ：政府管掌健康保険生活習慣病予防健診データ
年次：平成19年度計

北海道の特異性

～ 厳しい自然環境と低い家庭の介護力 ～

自然的要因

区分	北海道		全国
面積割合	21.03%	1位	-
人口密度	71.4人 / km ²	47位	342.6人 / km ²
年平均気温	9.1	47位	
雪日数	135日	1位	

社会的要因

区分	北海道		全国
人口	560万人 (総人口の4.38%)	7位	12,777万人
老年人口割合 (65歳以上)	22.2%	26位	20.1%
一世帯当世帯人員	2.31人	46位	2.55人
高齢単身世帯割合	8.95%	15位	7.88%
高齢夫婦世帯割合	11.14%	10位	9.15%
持ち家比率	56.7%	42位	61.2%
自宅死亡率	8.2%	46位	12.3%

可住地面積 ※対 施設数(100km²あたり)

	病 院		一般診療所		歯 科 診療所	
	精神科病院 (再掲)	一般病院 (再掲)	有床 (再掲)			
全 国	7.3	0.9	6.4	82.0	10.2	55.9
北 海 道	2.8	0.3	2.4	15.4	2.7	13.9

可住地面積：居住可能な条件を備えた土地の面積ことです。具体的には、総面積から北方地域(歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島)、林野面積、主要湖沼面積を差し引いて算出します。

平成19年 医療施設(動態)調査・病院報告の概況 (厚生労働省)
 社会生活統計指標 - 都道府県の指標 - 2008 (総務省統計局)

北海道支部評議会における意見概要

評議会における主なご意見

- ・都道府県単位保険料率の算定方法について、北海道における医療供給体制の偏在等、加入者の責によらないものは全国的な調整が必要である。
- ・医療供給体制等の問題について、全般的な責任を担う北海道や医療関係者等に対して、支部からの強い働きかけが必要である。
- ・道内中小企業が、今後の保険料率上昇にどれだけ耐えられるか非常に懸念を抱いている。
- ・医師不足等医療を取り巻く環境が非常に厳しい状況下、家計の様々な支出と命や健康を守る健康保険料とを比較して、保険料が果たして過大な支出なのか今一度考えてみる必要があるのではないか。
- ・保険給付費に係る国庫補助率は、少なくとも本則に戻すべきである。
- ・北海道と長野県の地域間格差について、やむを得ない部分とそうではない部分があるのではないかと。そうではない部分については意識改革が必要である。
- ・保険の担ぎ手が少なくなる一方で医療費は上昇する。病気にならないような方法をみんなで考えていかななくてはならない。

パイロット事業について

高医療費地域の医療費分析【パイロット事業】

1. 事業目的

- (1) レセプト及び健診データ等を活用することで、北海道における医療費構造を分析し、高医療費となっている原因を探る。
- (2) 次年度における対象別（事業所・被保険者・被扶養者）アクションプラン策定のための土台づくりとなる統計を作成する。
- (3) 分析結果を保健指導結果評価指標として活用する。
- (4) 分析結果を用い、評議会への情報提供及び加入者への広報を行う。
- (5) 地域の医療政策へ反映させることを目指し、行政及び関係機関への情報発信・連携を行う。

2. 事業内容

- (1) 統計システム等を利用した分析用データ抽出
産業・事業所・被保険者・被扶養者別の統計を作成し、事業主への健診受診勧奨に結び付けるための分析を行う。
入院・外来別レセプトデータ（疾病別、年齢階層別） 健診データの抽出（問診結果、検査結果、BMI、血圧等）
- (2) レセプト及び健診データのマッチング
- (3) 統計・分析資料の作成
- (4) 分析資料の公開（評議会・広報）
- (5) 効果的な保健事業の検討
- (6) 北海道（保健福祉部保健医療局）及び保険者協議会への情報発信及び連携

3. 進捗状況

- (1) 医療費分析委員会の外部委員として、北海道大学病院・医療マネジメント寄附研究部門特任准教授・藤森研司氏を委嘱、委員会へ招聘するとともに、分析内容等について随時アドバイスをいただく。
- (2) 分析項目・設定基準等の洗い出しを行い、整理を実施した。
 - ・分析データ：平成20年7月～平成21年6月分のレセプト情報及び保健情報を使用（個人情報のため、データを匿名化）
 - ・分析項目：入院疾病別分析、入院外投薬状況分析、事業所規模・業態別分析、医療機関地域別・規模別分析、業態別健診結果分析、医療・保健情報マッチング分析
- (3) 分析時期
 - ・本部より平成21年10月中旬にデータ入手、10月22日（木）より支部PCにてデータを取り込み、集計作業を開始。
- (4) 医療費分析委員会
 - ・第1回目の委員会を、平成21年10月28日（水）に開催し、分析項目・設定基準、今後のスケジュール等について確認予定。
 - ・その後は集計結果の状況に応じ、順次開催予定。

健康保険委員を通じた事業所における健康づくりの推進【パイロット事業】

1. 事業目的

健康保険委員を通じて適用事業所の加入者に「ウォーキング」をきっかけとした運動を勧め、加入者一人ひとりの健康の保持・増進を図ることを目的とする。

2. 事業内容

「DoさんこDonDonウォーキング」コンテストと題して、年齢を問わず誰でも気軽に始められる運動である「ウォーキング」をドンドン実践することにより、生活習慣病の予防と運動の習慣化による健康の保持・増進を図るため、適用事業所（健康保険委員）を通じ加入者に対して積極的に参加を促し、その実践記録を確認、コンテスト方式により楽しく健康づくりに取り組み、実施状況を周知広報することで、更なる参加者の拡大を行い、北海道（道産子）全体に事業展開する。

なお、コンテストについては、参加者5名から30名を1チームとして、随時参加を受付し、実践記録を1ヵ月単位で報告をいただき、1人当たり1日の平均歩数・総歩数としてチーム単位で競い合い、毎月ランキングを発表、半年単位で年2回表彰を行う。

また、参加者の増加、事業の継続のため、「周知用ポスター」「広報チラシ」「実践記録票」を製作のうえ活用する。

3. 期間

平成21年7月から通年

4. 進捗状況

【参加申込状況（平成21年10月16日現在）】

・31事業所42チーム（399名）、モニター（地域選抜）8チーム（50名）、協会北海道支部7チーム（98名） 計57チーム（547名）

【取組状況】

ポスター、チラシ（北海道日本ハムファイターズと提携）の作成後、健康保険委員へ広報紙とともに送付周知

社労士会、商工会議所、商工会、中小企業団体中央会を通じて周知依頼

健康保険委員のいない関係団体役員事業所88カ所へ健康保険委員の委嘱と合わせて依頼

各地区社会保険委員会役員172事業所、社会保険協会各支部役員87事業所へ参加に向けたご案内（札幌市内は訪問、市外は電話）

なお、取組時において「加入者に対する健康の意識付けに活用」していただくため、加入者へ広報チラシの配付を依頼

【今後の取組】

広報紙等による実施状況と参加を促す周知広報を実施

前記 の継続実施と大規模事業所等に対する周知広報による参加促進